

“安全なカルテ閲覧システムが患者中心の医療を推進”

「ICカードより
便利な認証システム
が見つかった」

亀田総合病院
カスタマーリレーション部の
山田剛士部長



効果を上げたモバイルはこれ!

業種	病院
活用分野	通院者への医療情報提供
テクノロジー	FOMA 電子認証サービス 「FirstPass」

▶ 患者がどこにいても
医療情報を参照可能に

インターネットを使って自分のカルテ情報を閲覧できる。医療の情報化を積極推進していることで知られる亀田総合病院は2002年、患者と医療機関の情報共有を実現するネットワークシステム「PLANET」(Patient Centered Lifetime Anywhere on the Planet NETWORKing System)を構築した。亀田総合病院・カスタマーリレーション部の山田剛士部長は、「私どものポリシーである“患者さん中心の医療”を具現化するものの1つとして、以前から構想を練っていたものでした」と説明する。

そして2004年8月、同システムはさらなる進化を遂げた。NTTドコモのFOMA 端末で、いつでもどこでもPLANETを利用できる仕組みが盛り込まれたのだ。

一番のポイントはセキュリティ。

カルテという秘匿性の高い個人情報を提供するうえで、同病院では以前からユーザー認証をはじめとする高度な情報セキュリティ対策を施してきたが、モバイル環境でも同等レベルの仕組みが、携帯電話の技術によって実現された。

▶ 安全性への要望を満たした
FOMAの電子認証サービス

「PLANET」では当初、自宅のPCから利用できるよう、ICカードを使った個人認証が採用された。同病院では、自宅以外でも利用できるよう、医療機関や公共施設など約15カ所に専用端末も設置した。しかしそれでも、カルテ情報にアクセスできる場所はある程度限定される。また、ICカードやカードリーダーにかかる費用、機器設定の手間なども課題となっていた。

「ICカードよりも安価な認証システムで、いつでもどこでもPLANETを利用できるツールはないか」この要望に応えるものが、NTTドコモの「FOMA」で提供される電子認証サービス「FirstPass」だったのだ。

同病院では、FOMA 端末専用のWebサイトを新たに開設。カルテ閲覧のほか診療予約/履歴の確認、さらに体温や血圧など健康状態の入力なども行えるようにした。また、亀田総合病院新棟の屋上へのFOMA 基地局設置、院内での携帯電話使用解禁(一部エリアを除く)など、利用環境の拡充にも努めた。

FOMAの導入で、患者自身が自分の医療情報を携帯できるようになった。山田部長は「旅行中に具合が悪くなったときにも、搬送先の病院で端末から情報を見せることで、スムーズな診察が行われたというケースがあります」と、利用シーンの広がりに確かな手応えを感じている。

今後は、在宅・訪問看護での携帯電話利用も進める考えで、現在、20名の訪問看護師にFOMA 端末を提供し、受け持ち患者の情報参照ツールとして試験運用中とのことだ。



FOMA 端末からアクセスした「PLANET」のメニュー画面

FOMA 端末からのPLANET 利用の仕組み



Profile

医療法人 鉄蕉会 亀田総合病院
http://www.kameda.com/

本社所在地 千葉県鴨川市東町 929
設立 1954年8月27日

事業内容

医療施設：亀田総合病院・亀田クリニック・亀田リハビリテーション病院で「亀田メディカルセンター」を形成。外来診療：33科目、病床数：937床(3施設合計) その他の事業：在宅医療、訪問看護、ホームヘルパー派遣などのサービス